



# がん患者と家族の日々をパネル展示

～「がんは遠くて近い～がんと七つの日々の物語」～

事前の  
お知らせ

会 期 8月31日(月)～9月17日(木)  
午前8時30分～午後5時15分(最終日は正午まで)

展示場所 練馬区役所本庁舎2階通路(豊玉北6-12-1)

区は31日から、9月のがん征圧月間に関する取り組みの一環として、パネル展「がんと七つの日々の物語」を開催する。

日本人の2人に1人はがんになる時代と言われているが、なかなか実感が湧きにくいのが現状である。そこで、がんになった方とその家族の日々の話を、イメージ写真と合わせたパネルで展示し、「がんは特別な病気ではなく、誰でもかかり得る病気である」ことを伝える。

「物語」は、看護師としての勤務経験がある区職員が、実際にがん患者や家族から聞いた話をもとに構成した。物語のパネルは7枚、イメージ写真と言葉だけのシンプルなデザインになっている。パネルは、その他のがん予防に関するものを合わせて計22枚展示する。

区の担当者は「がんを少しでも自分のこととして考えるきっかけにしてもらいたい」と話している。



【パネル展示の様子】

## 【パネルのデザインについて】

がんは、日本での死亡原因の1位であり、現在も増え続けている。しかし、区内のがん検診受診率のうち最も高い数値で22.4% 対象人口率(大腸がん:40歳以上)と、がんに対する関心は低いのが現状である。今回のパネル展では、検診受診勧奨の文言をあえて入れず、がん患者と家族の「物語」を中心にしたデザインにすることで、読み手の心情に訴える工夫をした。

## 【パネルで展示する「物語」について ～がんになったあとの日々のお話～】

“「なあ、みーちゃん、お父さん再発したんだ。」 父からの久々の電話は、再発の報告だった。肝がんになって5年。手術をしたり、放射線をしたり、いろいろな治療をしながら、73歳の父は、ずっとがんと闘っている。  
「みーちゃん、でもね、お父さんは治っても治らなくてもどっちでも幸せだと思うんだ。治ればみーちゃんといっしょにいられる。でも治らなくても、母さんに会えるからね」...”

これはパネル展で紹介する「物語」の一つ『会えるのはもう少し先』の一部。少しでも自分と照らし合わせて感じやすいよう、本人や家族の視点から、日常生活の中の一場面を書いている。

区の担当者は「パネルを見ていただいた方に、がんは誰でもかかり得る病気であるということ、少しでも心に留めてもらい、がんを自分の事として考えるきっかけにもらえれば」と話している。

## 【区ホームページでも紹介】

パネルに掲載されている「物語」についての詳細は、区ホームページでも紹介している。また、「物語」は小冊子にしてパネル展の展示場所で配布している。

[区ホームページ URL]

<https://www.city.nerima.tokyo.jp/kurashi/hoken/kenkodukuri/06615805120130809095.html>

【問い合わせ】健康部 健康推進課 健康づくり係 電話03-5984-4624